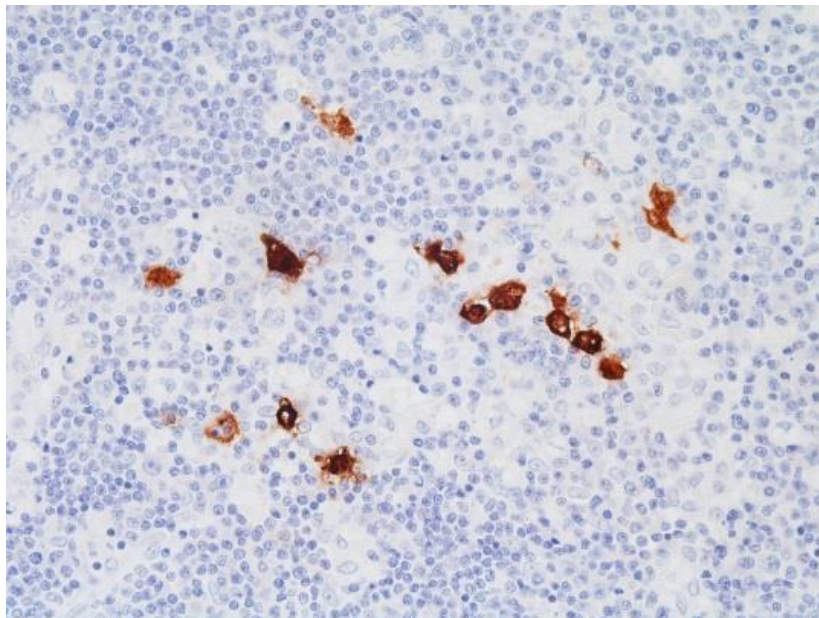


コロナウイルス免疫染色

- コロナウイルスによる疾患は多くの動物種に起こりますが、その中でも猫伝染性腹膜炎（FIP）とフェレット全身性コロナウイルス関連疾患は、未だに有効な治療法がない、いわゆる動物における難病です。
- これらの疾患にかかった動物の組織には、マクロファージが優勢な炎症（肉芽腫性炎症）が起こりますが、通常のヘマトキシリン・エオジン染色標本では他の原因（異物、細菌、真菌等）によって起こる肉芽腫性炎症と区別できません。
- 世界中で使われている抗コロナウイルス抗体 FIPV3-70クローン（参考 Vet Pathol 2008 45:236-246）を用いた免疫染色により、コロナウイルス抗原がマクロファージの細胞質に存在するか否かがわかり、確定診断が可能となります。
- 正しい診断を元に、患者さんにベストのケアを提供しましょう！本検査を是非、大切な動物たちのためにお役立て下さい。



肉芽腫性炎症の病巣に、コロナウイルス抗原を細胞質に持つマクロファージが認められます。

- 対象：猫やフェレットの病変で、コロナウイルスの関与が疑われる場合。
- 価格：お問い合わせください。
- 所用時間：受付から約1週間（営業日換算）。
- ご依頼方法：
 - ①弊社および提携会社（富士フィルムモノリス株式会社様、株式会社新組織科学研究所様）にて診断した症例 → 診断書コメント欄等でご案内いたします。
 - ②他の診断会社にて診断された症例 → 記入済みの「組織病理検査依頼書」（弊社ホームページよりダウンロード可能）と病変のパラフィンブロックを弊社までお送りください。

お問い合わせはこちらまで 

Tel 042-315-4092 Fax 050-3153-0639
E-mail info@no-boundaries.jp
住所 〒183-0053 東京都府中市天神町3-16-2
パレススメール1階南側
合同会社ノーバウンダリーズ動物病理